研究員の眼

外国株式ファンドが一時、売却超過に
～2024年8月の投信動向～

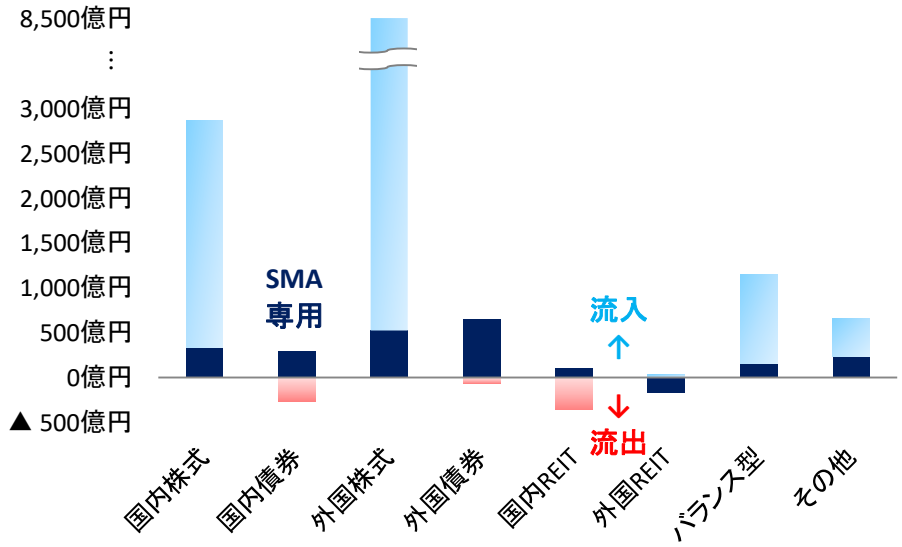
金融研究部 主任研究員　前山　裕亮
(03)3512-1785　ymaeyama@nli-research.co.jp

先月から外国株式ファンドへの資金流入が急減

2024年８月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、外国株式ファンドに8,500億円の資金流入があった【図表１】。８月も大規模な資金流入があったといえるが、過去最大であった７月の１兆5,300億円からは急減し、新NISAが始まった2024年からだと最小だった。

外国株式ファンドについてはタイプによらず資金流入が大きく減少した。８月は一般販売されてインデックス型の外国株式ファンドに 5,300 億円と７月の 9,200 億円から４割減、アクティブ型には2,500億円と７月の5,600億円から５割減となった。個別にみてもインデックス型（赤太字）、アクティブ型（青太字）問わず、８月に資金流入が大きかった外国株式ファンドは７月から軒並み資金流入が鈍化した【図表２】。

【図表1】2024年8月の日本籍追加型株式投信(除くETF)の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

 Copyright ©2024 NLI Research Institute All rights reserved

【図表2】2024 年8月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	7月の流出入	8月の推計純流入	純資産 8月末時点
1位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJアセットマネジメント	2,241億円	1,520億円	3兆9,201億円
2位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJアセットマネジメント	2,005億円	1,181億円	4兆9,916億円
3位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	1,687億円	795億円	2兆8,000億円
4位	インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	インベスコ・アセット・マネジメント	593億円	482億円	1兆4,921億円
5位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・バーンスタイン	428億円	265億円	1兆3,218億円
6位	楽天・S&P500インデックス・ファンド	楽天投信投資顧問	299億円	222億円	2,568億円
7位	楽天・オールカントリー株式インデックス・ファンド	楽天投信投資顧問	204億円	160億円	1,902億円
8位	HSBCグローバル・ターゲット利回り債券ファンド2024-08(限定追加型)	HSBC アセットマネジメント	----	155億円	150億円
9位	eMAXIS Slim 国内株式(TOPIX)	三菱UFJアセットマネジメント	155億円	154億円	2,181億円
10位	日経225ノーロードオープン	アセットマネジメントOne	165億円	148億円	3,245億円

（資料）Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

2024 年に入ってから外国株式ファンドはインデックス型を中心に非常によく売れていた。なんといっても新NISAの影響が大きいが、それに加えて外国株式ファンドが総じて高パフォーマンスであったことも追い風になっていたと考えられる。米国株式を中心に世界的に株価は上昇し、しかも為替市場では年初１ドル 140 円台前半だったのが７月頭には一時 160 円を超えていた。そのため多くの為替ヘッジをしていない外国株式ファンドの基準価額が大きく上昇した。

しかし、７月中旬以降から８月上旬にかけては一転して世界的に株価が下落し、さらに為替市場では急激に円高が進んだ。この期間に多くの外国株式ファンドで基準価額が 10%以上も下落した。そのような中、外国株式ファンドの購入を見送る、さらには保有しているファンドを売却する投資家も一部でいた様子である。

実際に外国株式ファンドは６日、７日、８日は３営業日連続でタイプによらず流出超過だった。一般販売されているものの純流出額は３日間の累積でインデックス型が 1,500 億円、アクティブ型が 900 億円にもなり、特に７日だけでそれぞれ 1,000 億円、700 億円も純流出した。外国株式ファンドの場合、注文から２営業日タイムラグがあるため、５日は売り注文が膨らんだようだ。

国内株式では逆張り投資が健在

一方で８月は国内株式ファンドへ７月以上に資金流入があった。国内株式ファンドには８月に 2,900 億円の資金流入があり、７月の 1,900 億円から 1,000 億円も増えた。一般販売されている国内株式ファンドをタイプ別にみると、インデックス型で 1,700 億円、アクティブ型で 800 億円と７月の 1,100 億円、500 億円からともに増加したが、特にインデックス型で顕著だった。

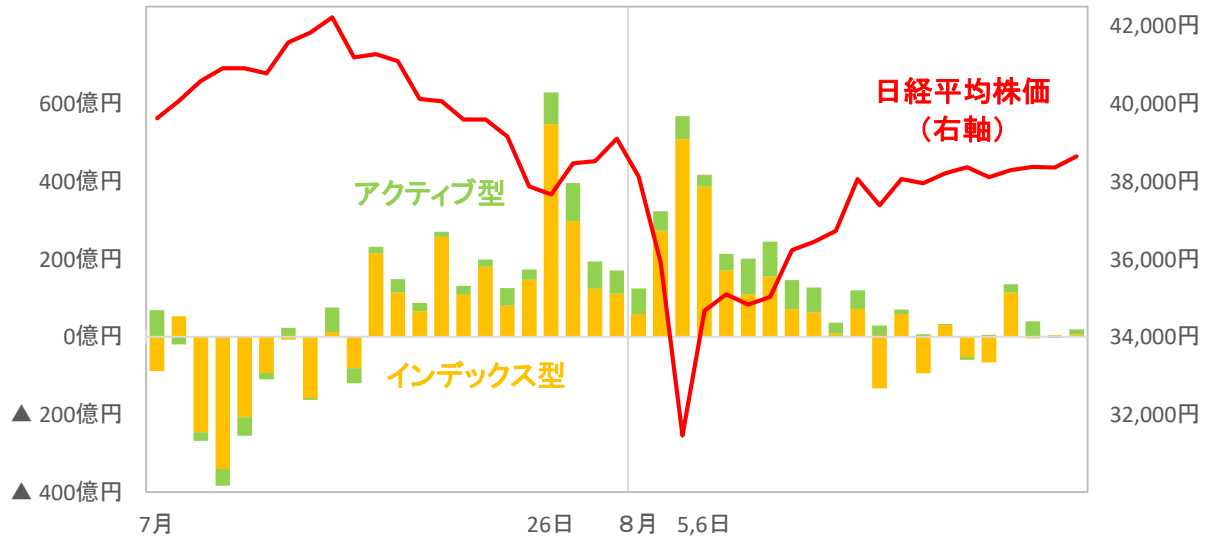
一般販売されている国内株式ファンドの７月以降の資金動向を日次でみると、日経平均株価が史上最高値の４万 2,224 円をつけた翌営業日[1]の７月 12 日までは流出基調であった【図表３】。それが７月 12 日以降は国内株式が急落する中、一転してインデックス型（黄棒）中心に資金流入があり、やはり積極的に逆張り投資をしていたことが分かる。

なお、日経平均株価が３万 1,500 円を下回り底値をつけた翌営業日の６日よりも、７月 26 日や５日の方が大きかった。底値でうまく拾えた人は少なかった様子である。

[1] 国内株式ファンドの場合は注文・約定から１営業日タイムラグがある。

 Copyright ©2024 NLI Research Institute All rights reserved

【図表3】一般販売されている国内株式ファンドの日次資金流出入



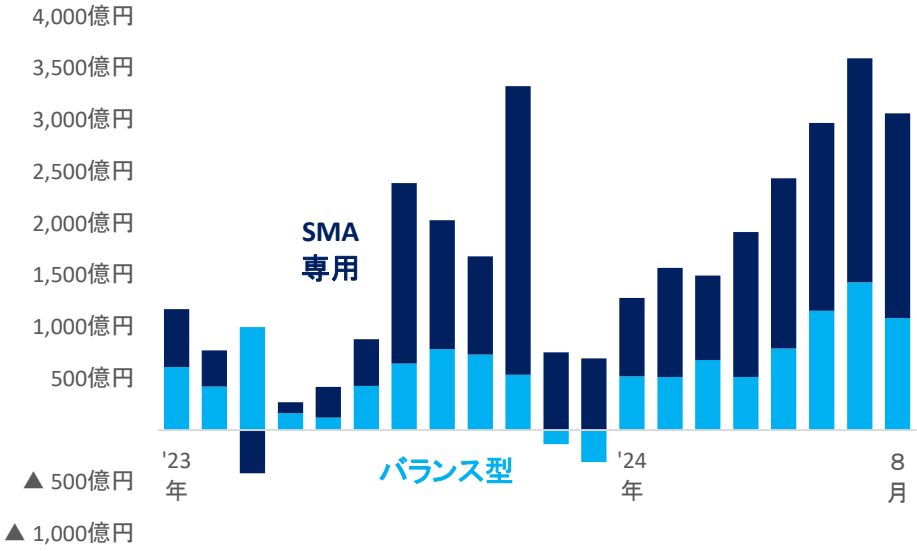
（資料）Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2024 年8月は推計。

外国株式ファンド以外は？

また、バランス型ファンド（青棒）には８月に 1,100 億円の資金流入と７月の 1,400 億円から減少したが、６月並みの規模であり小幅な鈍化であった【図表４】。SMA専用ファンド全体（紺棒）にも 2,000 億円の資金流入があった。７月の 2,200 億円よりやや減少したものの、８月もそれなりにラップ口座が売れたことが推察される。それ以外の資産クラスのファンドについては、SMA専用ファンドを除外して一般販売しているものに限ると流出額は７月より減少していたが引き続き流出超過だった。

このように８月は内外株式や為替が大きく変動したが、これまで売れに売れていた外国株式ファンド以外はこれまで通りで驚くような変化は投信販売からは見られなかった。

【図表4】バランス型ファンドと SMA 専用ファンドの資金動向



（資料）Morningstar Direct より作成。2024 年8月は推計。

 Copyright ©2024 NLI Research Institute All rights reserved

アクティブ型の株式ファンドやレバレッジを活用したファンドに好調なものが

８月は、アクティブ型の株式ファンド（赤太字）やレバレッジを活用したファンド（青太字）の一部で高パフォーマンスをあげたものがあった【図表５】。

【図表5】2024 年7月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	8月の収益率	過去1年収益率	純資産8月末時点
1位	**大塚グループ株式ファンド(確定拠出年金)大塚ホールディングス株式、アース製薬株式**	野村アセットマネジメント	9.9 %	53.8 %	17 億円
2位	**米国分散投資戦略ファンド(5倍コース)**	三井住友DSアセットマネジメント	9.5 %	11.7 %	211 億円
3位	NASDAQ100トリプル(マルチアイ搭載)	大和アセットマネジメント	7.7 %	42.8 %	75 億円
4位	**アクセラレーション・ジャパン2023-05(限定追加型・早期償還条項付)**	三井住友DSアセットマネジメント	7.7 %	12.6 %	220 億円
5位	**米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)**	三菱UFJアセットマネジメント	7.4 %	13.9 %	51 億円
6位	**米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(年2回決算型)**	三菱UFJアセットマネジメント	7.4 %	13.8 %	17 億円
7位	**債券パワード・インカムファンド(毎月分配型)**	SOMPOアセットマネジメント	7.0 %	12.5 %	288 億円
8位	**債券パワード・インカムファンド(資産成長型)**	SOMPOアセットマネジメント	7.0 %	12.6 %	935 億円
9位	**グローバル5.5倍バランスファンド(1年決算型)**	日興アセットマネジメント	6.6 %	25.5 %	142 億円
10位	**グローバル5.5倍バランスファンド(予想分配金提示型)**	日興アセットマネジメント	6.5 %	25.1 %	18 億円

（資料）Morningstar Direct より作成。2024 年7月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

（ご注意）当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。